

熊野の  
木林から



熊野の山中の古寺に出たという「コンニャク坊さん」。捨てられたコンニャク畑の古コンニャクが化けたものだという。(イラストは、おませ)

「何日でも泊まっ  
ていきなされ」  
と、さっそく風呂  
を振る舞った。旅  
の僧は「風呂に灰  
は入っていないか」  
と何度も何度も  
確認してくる。住  
職はおかしな僧

# 怪熊野

其の四  
「コンニャク坊さん」

和歌山大学  
システム工学部  
システム学科  
環境システム  
中島敦司教授



中辺路や本宮には「コンニャク坊さん」の話が伝  
わっている。  
いつの時代、どこかの寺かは分からないが、ある寒い  
冬の日に、山中の古寺に旅の僧が一夜の宿を求め  
てやって来た。寺の住職は話し相手ができた喜び

だと思つたが、それが毎日続  
く。  
ある日、住職  
はいたずら心で  
風呂に灰を入れ  
てみた。旅の僧  
は、いつもと同じ  
ように風呂に  
入った。随分と時間が経つても、旅の僧が風呂から  
出てくる気配は無い。住職は心配になり、様子  
を見に行くと風呂の中には大きな丸いコンニャク玉が  
浮かんでいた。実は、この旅の僧は、寺の裏で何年  
も放置された畑の古いコンニャクが化けたもので、  
灰で煮られたために「コンニャク玉」になってしまつた  
という。  
「コンニャク坊さん」の話は、熊野以外でも、例え  
ば美山や花園にも残されている。十津川の那知合  
では、坊さんではなく若い娘さんだったという話が  
残されている。  
農地を放置すると荒れ果てるものだが、そういう  
場面ではコンニャクに限らずいろいろな作物が化け  
て人の前に現れる。例えば、東北地方の、特に仙台  
周辺では「タンゴロリン」という妖怪の話が伝承され



江戸時代の妖怪絵師、鳥山石燕(とりやま せきえん)によって描かれた「泥田坊」。先祖伝来の田畑を荒らしてしまつて出てくるという。(国会図書館近代デジタルライブラリーより転載)

ている。柿の実を収穫せずに放置しておくと、恐ろ  
しい顔の妖怪に化け、人々に飛びかかったりする  
という。また、同じ東北には「泥田坊」の話も残され  
る。遊興に現(うつ)を抜かして田を荒らすと出て  
くる妖怪だ。災害を引き起こす。江戸時代の絵  
師、鳥山石燕の画集や、水木しげる作品にも登場  
し、その恐ろしい姿から人気が高い。  
これらの話に共通していることは、せつかく育つた  
作物をムダにしたり、田畑を大事にしないと何か  
が化けて出てくるということだ。時に災害を引き起  
こしたりする恐ろしいものだ。近年は、農業人口は  
減り続けており、耕作放棄地が増えている。さまざ  
まな農業施策も空しく、日本の多くの場所で田畑  
は荒れ果ててしまった。恐ろしい妖怪が災いをもた  
らさないようにするためにも、耕作放棄地問題は  
早急に解決しないとけない課題だ。  
中島敦司(なかしま・あつし)教授プロフィール  
昭和38年、岐阜県生まれ。三重大  
学大学院生物資源研究科博士後  
期課程を修了。平成8年から和  
歌山大学システム工学部講師、  
12年から助教授。19年から教授。  
専門は森林生態、自然再生、砂漠  
緑化、海岸林再生、地域資源、地球温暖化、自然エネ  
ルギ、民俗(妖怪、伝承)。NPO活動にも力を入れる。熊  
野方面には年間30〜50日は訪問し、研究する。

